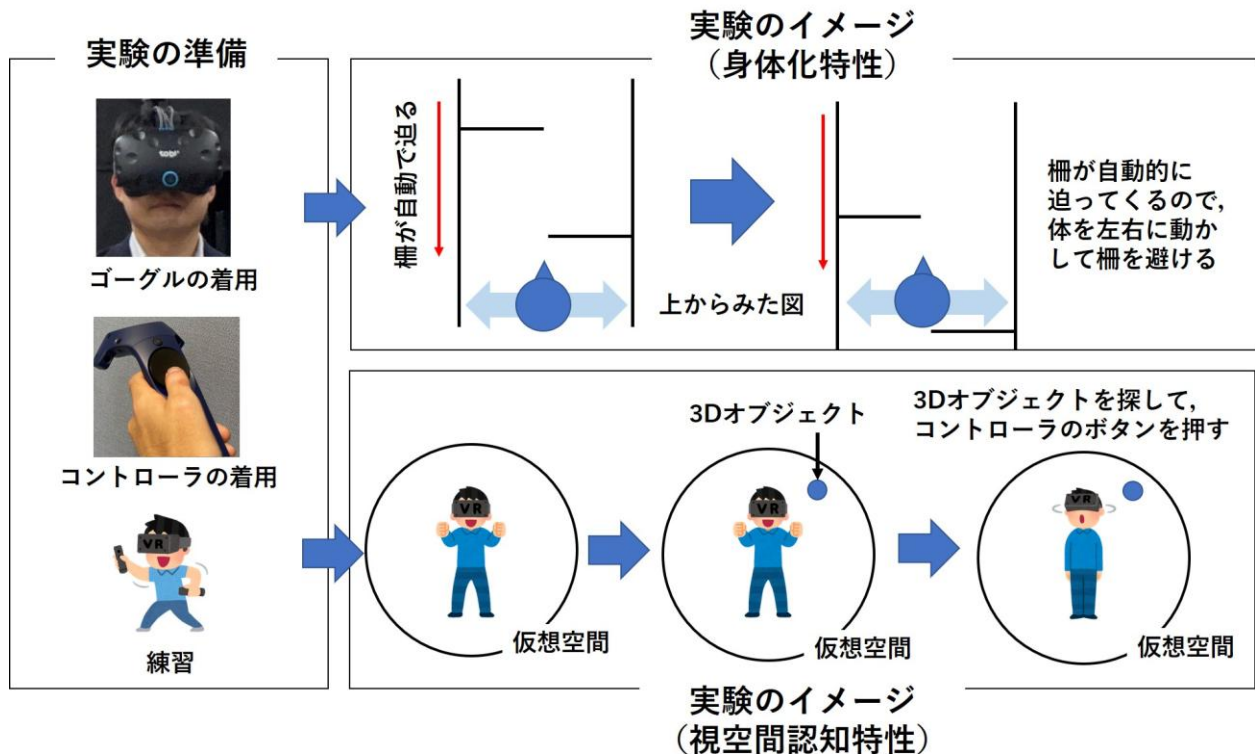


研究協力についての説明書
(研究説明書)

研究説明（概説版）

近年、遠隔作業、職業訓練、ゲームなどの業界でバーチャルリアリティ技術が注目されています。一方で、このような技術を使いやすくするには、人の特性や個人差に合うようにシステムを設計しなければなりません。

そこで、みなさんがバーチャルリアリティを利用しているときの印象や行動を調べることで、定型発達者・発達障害者の特性を明らかにし、誰もが使いやすいと思える技術の開発につなげます。



研究説明（詳細版）

- 研究課題名： 発達障害者における身体化・視空間認知特性の解明とその特性を考慮した支援技術の開発
- 研究対象者として選定された理由： 本研究では、実験参加者として、16歳以上の方を対象としています。上記年齢の方のうち、
 - 診断、検査などにより、発達障害的な特性があることが明らかになっている方
 - 発達障害の特性が認められない定型発達者（健常者）
 の方を対象にします。
 また、てんかんなどの特殊な神経疾患にかかった経験がなく、感覚過敏の症状のない方、視覚・聴覚・触覚に特に問題がない方、アルコール過敏がない方にご参加いただく必要があります。研究協力への参加には、説明内容を充分にご理解いただいた上で、同意をいただきます。説明の内容に不明な点があれば、ご遠慮なくご質問ください。研究参加への同意を書面で確認の上、国立障害者リハビリテーションセンター研究所の研究担当者が実験を実施します。
- 研究目的、意義、方法及び期間：国立障害者リハビリテーションセンター研究所の脳機能系障害研究部・発達障害研究室では、自閉症スペクトラム障害などの発達障害にとともなう、認知特性、感覚運動特性の変調に関して研究を行っています。発達障害者の方は、自動車を周りにぶつけてしまうなどの道具をうまく使いこなせない傾向があるといわれています。道具を使いこなすためには、その道具を自分の体の一部のように認識したり、周囲に何があるかを素早く認識することが求められます。本研究では、心理行動実験を通して基礎データを収集し、そのデータ

をもとに、発達障害者の道具の使いやすさを拡張する技術の開発を行います。発達障害のメカニズムを明らかにすることで、障害当事者の生活の自立、就労を促進し、本人と家族の生活の質、さらに取り巻く社会の福祉の向上に貢献することが、研究の目的です。この研究は、国立障害者リハビリテーションセンターの倫理審査委員会およびセンター総長の承認を経て実施されるものです。

研究期間は、令和2年8月から令和12年3月までを予定しております。

4. 研究協力依頼内容：

- 実験時間は説明や休憩も含めて2時間半程度です。適宜休憩をとりながら1回あたり10～15分の実験を数回（最大所要時間約90分）、性格特性や自己認知などを評価するための質問紙（AQスコア、EQ/SQスコア、CAARSスコア、Edinburgh/FLANDERS利き手検査、ISQスコア、BPQ-BAスコア、トロント・アレキシサイミア尺度、出来事に伴う心理的苦悩尺度）の回答（所要時間約40分）を行っていただきます。ISQスコア、BPQ-BAスコアに関しては、実験の前後で回答いただく場合があります。
- 発達障害研究室の既存の実験に参加した際に、知能検査（WAIS-III）や自閉症重症度の評価（ADOS-2）、感覚特性の評価（感覚プロファイル）を受けていたり、上記の質問紙に回答したことがある場合には、追加で回答はいただくかず、その値を解析に使わせていただく場合があります。
- まず課題の説明を行います。同意ののちに必要に応じて課題の練習も行なっていただきます。課題中はなるべくリラックスした状態で椅子に座っていただきます。
- 主な課題は、「バーチャルリアリティの空間の中で特定のアイテムを探す」こと、もしくは「バーチャルリアリティの空間の中で体を動かす」ことです。実験中の視線測定を行う場合がありますが、これは赤外線とカメラを用いた計測システムですので、目に障害を与えるような危険な刺激は出ておりません。バーチャルリアリティの空間の中で、コントローラを動かしてボタンを押してもらいます。「疲れたり、違和感があったり、酔った感覚がある」場合はすぐにおっしゃってください。
- 必要に応じて、触覚刺激を与える装置を装着していただきます。また、音の刺激を聞いてもらうため、ヘッドホンをしていただく場合もあります。いずれも日常生活で感じる程度の刺激強度です。
- 心理実験では、1ブロック10～15分の実験を数回行っていただきます（所要時間：最大で計90分）。実験と実験の間で必要に応じて休憩をとります。実験中であっても、疲れてきた、眠くなってきた場合には、必ず申し出てください。そのつど休憩をとっていただきます（あるいは実験を中止します）。
- 利き手を調べるための質問に回答していただきます。当てはまるものに○をつけていただくものです（所要時間：約20分）。
- 本実験の参加者となることは自由意思によるものであり、実験遂行に関して、実験者の説明に納得がいけない場合や、身体的あるいは精神的に不調をきたした場合は、参加者の方は、いつでも実験を取りやめることができます。また、これらの理由に関わらず、自由に実験を中止することができ、その中止によっていかなる不利益もありません。
- 実験装置、課題について事前に説明します。この説明で、参加者の理解と参加の承諾を得られ、かつ実験前の質問事項に対する回答に問題ないと実験責任者が判断した場合のみ実験を開始します。
- 実験に関して、不安を感じる点、手順を理解できない点があれば、実験途中で実験担当者に質問してかまいません。
- 弊所の規定額にもとづいた謝金が支払われます（例：1時間以上～3時間弱 4310円）。

5. 予想される協力者の不利益及びその対応

本研究で使用するバーチャルリアリティの映像の輝度と聴覚刺激の強度は日常的なもの（テレビやインターネットの動画など）と同等の範囲であり、身体への危険はありません。触覚刺激の強度も日常的なもの（携帯電話のバイブレーションなど）と同等の範囲内です。ただし、実験中に疲れたり、映像に酔ってしまうこともありえますし、体調によっては感覚刺激自体が辛く感じられることがあります。その場合は、我慢せずに速やかに実験担当者に教えてください。適宜休憩をとるか、刺激強度・姿勢の調整を行います。また、実験を中止させていただくこともございます。

6. 個人情報の管理方法（匿名化など）

プライバシーの保護・機密保持については厳重に取り扱います。収集したデータは研究以外の目的に使用しません。学会や学術雑誌への、実験結果の発表において被験者の名前やその他の属性が記載されることはありません。自閉症の評価のための面接・検査時はビデオ録画を行いますが、録画データも同様に評価以外の用途では使用されません。

7. 当該研究の資金源、起こりうる利害の衝突（研究結果に関する特許権の利害等も含む。）及び研究者等の関連組織（研究者の属する実施機関、研究班等）とその関わり

この研究は、基盤研究 S「脳の一般原理に基づく認知機能の多様性発生機序の理解と発達障害者支援」、学術変革研究 A「感覚・認知の個性の『当事者化』および国立障害者リハビリテーションセンターの運営費を用いて、研究所（脳機能系障害研究部 発達障害研究室）にて実施します。起こりうる利害の衝突はありません。

8. 当該研究に参加することにより期待される利益、起こりうる危険及び必然的に伴う不快な状態並びにその対応

本研究は、発達障害の身体化特性と視空間認知特性を明らかにすることを通じて、将来的な医療、福祉の向上に資することを目的に実施しております。今回の実験は、治療面などの直接的な利益はありませんが、希望があれば測定の結果をお知らせします。実験機器は非侵襲的なものですので、身体への危険はありません。課題への集中や、同じ姿勢をとり続けることで疲労や不快感を生じるかもしれませんが、「疲れた」や「休みたい」といったように違和感を感じた時には、すぐに休憩を入れたり、実験を中止したりできますので、遠慮なくおっしゃってください。

バーチャルリアリティの実験では体を動かすことがあります。ものや壁などにぶつからないように周囲の空間を広く取り、足元にはものを置かないようにします。また、転倒の可能性が考えられるため、転倒しないように実験者が確認し、必要に応じて支援します。

9. 個人情報の取扱いに関するお問い合わせ先：

質問・問合せ・ご意見がある場合は、下記までお申し出下さい。

国立障害者リハビリテーションセンター
企画・情報部 企画課長 白津 隆一
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1
TEL：04-2995-3100（内線2140）、FAX：04-2995-3661
苦情申し出先アドレス：kikakurinnri@mhlw.go.jp

10. 実験に関するお問い合わせ先：

国立障害者リハビリテーションセンター
研究所 脳機能系障害研究室 発達障害研究室
室長 和田 真
〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1
TEL：04-2995-3100（内線2586）、FAX：04-2995-3132
苦情申し出先アドレス：wada-makoto@rehab.go.jp, wada-makoto.tl7@mhlw.go.jp

11. その他の確認事項

- ① 研究に参加することに同意しなくてもなんら不利益をうけることはありません。また一旦参加することに同意した場合でも、その同意はいつでも撤回することができ、実験中でも自由に取りやめることが可能です。取りやめた場合でも規定額の謝金は支払われません。
- ② ご希望があれば、研究の結果明らかになった個人データの解析結果をご本人またはご家族に開示し説明をいたします。
- ③ 測定されたデータは研究目的以外には使用せず、国立障害者リハビリテーションセンター研究所 脳機能系障害研究部 発達障害研究室の鍵つき保管庫に保管されます。研究終了後10年、または当該論文発表後10年のどちらか遅い時点まで保管し、その時点で廃棄いたします（個人情報にはシュレッダー等により処理）。個人情報に該当せず、かつ論文の論拠となるデータについては、下記の通り、論文出版時に公開されます。

- ④ 本研究の成果は、学会、報告会、論文等において公表されることがあります。論文等に付随して反応速度・反応率等のデータが図表ないしはデータベースのかたち（データリポジトリ等）で公表されますが、すべて個人を特定できない形で処理されます。成果発表後のデータ公開の取り消しは不可能ですのでご了承ください。いずれの場合においても、参加者の個人情報が外部に公表されることは一切ありません。

説明年月日： 令和 年 月 日

説明者： _____

（国立障害者リハビリテーションセンター研究所 脳機能系障害研究部 発達障害研究室）

説明を受けた者（本人またはこれに準ずる者）の住所、氏名、本人との続柄

氏名： _____（続柄： _____）

住所： _____